

【日本遺産】シリーズ⑤

出雲國たたら風土記

鉄づくり千年が生んだ物語



地域に点在する文化や風習、文化財などを一つの「ストーリー」として文化庁が認定している日本遺産。そんな日本遺産に、たたら製鉄に関するストーリーが「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」として認定されています。

ここでは、日本遺産の構成地域である安来市・雲南市・奥出雲町が共同して、日本遺産の構成文化財を紹介します。

■櫻井家住宅（奥出雲町）

櫻井家は、江戸前期にたたら製鉄を行っていた有名な鉄師御三家（櫻井家・絲原家・田部家）のひとつです。1738年に建てられた母屋などが国の重要文化財に指定されています。

また、かつて松江藩主・松平不昧公が訪れた際には本陣宿（大名や幕府役人が宿泊する）をとつとめ、以後、藩主が6度も訪れ

たと言われています。

2023年には、TBSドラマ「マ日曜劇場「VIVANT」のロケ地になりました。



▲櫻井家住宅（奥出雲町）

問い合わせ 観光振興課

☎ 23-3110

関連情報はこちら

右下2次元コード：
出雲國たたら風土記
Instagram

左下2次元コード：
鉄の道文化圏ホーム
ページ



＝人権尊重社会の実現をめざして＝

シリーズ
人権を
考える 74

災害時における人権
～「自助」「公助」「共助」
の考え方の連携が大切です～

日本は、地震や台風をはじめとする自然災害が多い国です。災害時には、被災した全ての人たちに人権上の問題が起きる可能性があります。高齢者、障がい者、妊産婦・乳幼児、外国人、女性、子どもなどへの配慮不足や人権侵害など、さまざまな問題が表面化しています。

災害時には、これまで経験したことのないような不安やストレスを感じます。災害時こそ、お互いを思いやる行動ができるよう、普段から人権意識を高めておくことが大切です。

みなさんは、「自助」「公助」「共助」という3つの「助」をご存じですか？

「自助」は、自分の命は自分で守ることで、防災の基本と言われます。

「公助」は、行政による支援のことです。

「共助」は、家族だけでなく、隣近所、地域（自治会など）単位での助け合いの体制をつくることです。

「共助」は日常生活でも大切であり、その意識を高めるためには、人に対する思いやりの気持ちをもつことが最も重要です。阪神淡路大震災や東日本大震災などで救出された人の多くは、近隣住民によって助け出されたという調査結果もあります。

「共助」は、避難行動、避難所の円滑な運営において大きな役割を果たします。周囲の人との助け合いやお互いを思いやる気持ちなど、地域での普段からのコミュニケーションが重要です。

防災対策や災害対応では、「自助」「公助」「共助」の考え方を連携させることが大切です。普段から、災害時における3つの「助」について考え、いざという時に、人権の視点にたった「共助」が実践できるよう備えましょう。

◆9月の「特設人権相談所」

開設日時 9月3日(水)9時30分～12時

場所 伯太中央交流センター（研修室）

問い合わせ 人権施策推進課 ☎ 23-3054

